



## 「外為短期投資家動向調査」結果

<第82回調査>

2016年03月28日

### 【本調査の目的】

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施しておりましたが、2010年8月の第15回調査より、その名称を「外為短期投資動向調査(略称:外為短観)」に改めました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるという形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

### 【調査実施期間】

2016年03月15日(火)13:00~2016年03月22日(火)13:00  
※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

### 【調査対象】

(株)外為どっとコムの『外貨ネクストネオ』に口座を開設のお客様層

### 【調査方法】

(株)外為どっとコムの口座開設者にメールでアンケート回答URLを送付。  
今回の有効回答数は925件。  
※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

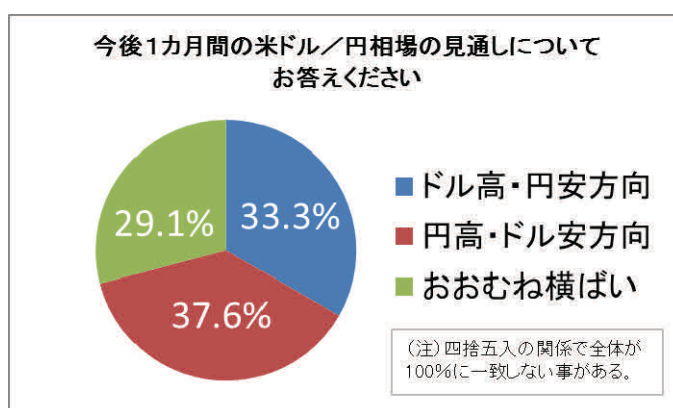
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2016 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

## 【第82回調査結果略報：ユーロ/円、根強い弱気見通し】

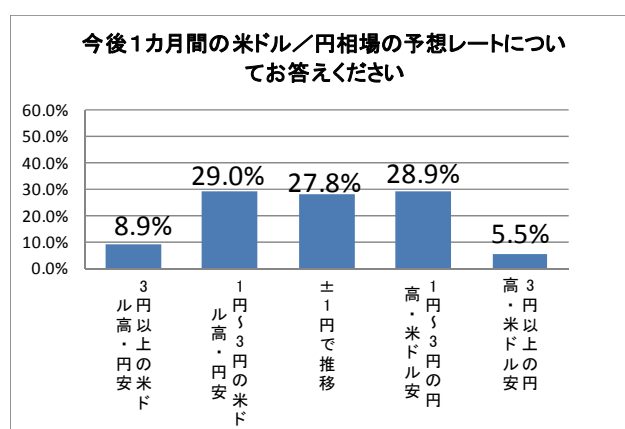
## 問1：今後1か月間の米ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1か月間の米ドル/円相場の見通し」については、「ドル高・円安方向」と答えた割合が33.3%であったのに対し「円高・ドル安方向」と答えた割合は37.6%であった。この結果「米ドル/円予想DI」は▼4.3%ポイントとなり、前回に続き米ドル弱気・円強気が優勢となった。ただ、弱気度合いを示すDIのマイナス幅は前回の▼11.6%ポイントから縮小した。ドル強気・円弱気勢が前月(34.7%)と大きな変化がなく、円強気・ドル弱気派(前月：46.3%)から、一部「おおむね横ばい(同：18.9%)」へシフトした格好だ。調査期間中の米ドル/円相場は、113円台後半から値を下げ、一時110.670円まで下落した。しかし111円ちょうど前後では底堅さを見せ、112円台前半まで切り返した。このことから、一旦は底打ちと見たFX投資家が増えた可能性がある。※過去の米ドル円予想DIの推移はP6-7に掲載。



## 問2：今後1か月間の米ドル/円相場の予想レートについてお答えください

「今後1か月間の米ドル/円相場の予想レート」については、「1円～3円の米ドル高・円安」が29.0%と最も多く、「1円～3円の円高・米ドル安」が28.9%、「±1円で推移」が27.8%と続いた。「3円以上の米ドル高・円安」は8.9%、「3円以上の円高・米ドル安」は5.5%であった。先月に比べて3円以上の大幅な値動きを予想する投資家が減少しており、中央の3つの選択肢が拮抗している。米ドル高・円安方向にしても、米ドル安・円高方向にしても、狭い値幅になると見るFX投資家が増加している模様だ。

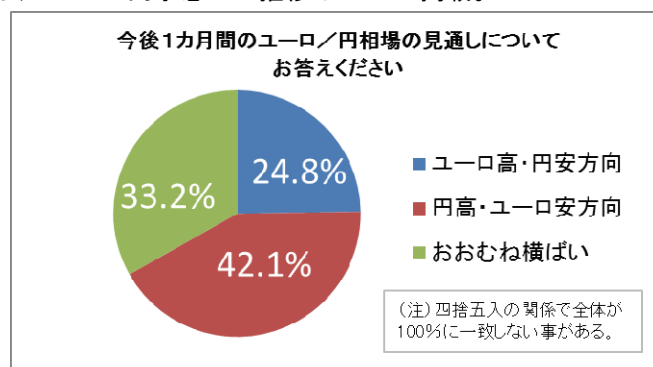


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2016 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

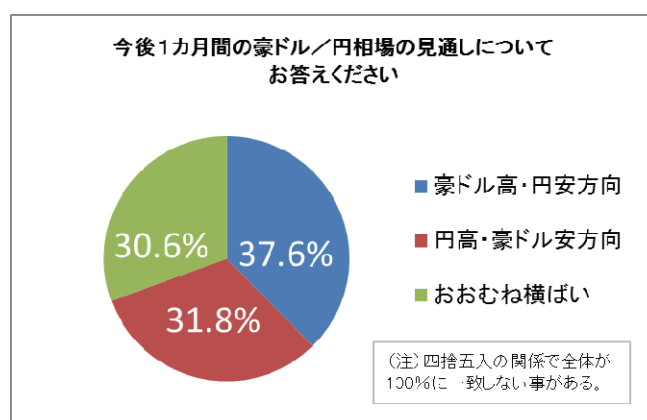
### 問3: 今後1か月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください

「今後1か月間のユーロ/円相場の見通し」については、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が24.8%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が42.1%であった。この結果、「ユーロ/円予想DI」は▼17.3%ポイントと、前回調査(▼26.5%ポイント)からマイナス幅は縮小した。しかし、7か月連続のユーロ弱気見通しとなった。調査期間中のユーロ/円は、124円台半ばから126円台半ばでもみ合いとなっており、そうした中で「おおむね横ばい」が前月(28.5%)よりも増加した格好だ。とはいえ、3月には欧州中銀が大規模な追加緩和を行ったものの、英国のEU離脱懸念や、欧州経済の弱さが払拭できないためか、ユーロは先安見通し派が依然として多いという結果になった。※過去のユーロ円予想DIの推移はP6-7に掲載。



### 問4: 今後1か月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1か月間の豪ドル/円相場の見通し」については、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が37.6%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合は31.8%であった。この結果「豪ドル/円予想DI」は+5.8%ポイントとなり、4か月ぶりの豪ドル強気予想優勢となった。調査期間中の豪ドル/円相場は84円台前半から86円台後半でもみ合いとなった。3月14日に一度86.415円で頭を打っており、上値の重さが見られるものの、原油価格が40ドル台を回復するなど、豪州については目立った悪材料が出ておらず、豪ドル強気・円弱気派が増加したものと見られる。※過去の豪ドル円予想DIの推移はP6-7に掲載。

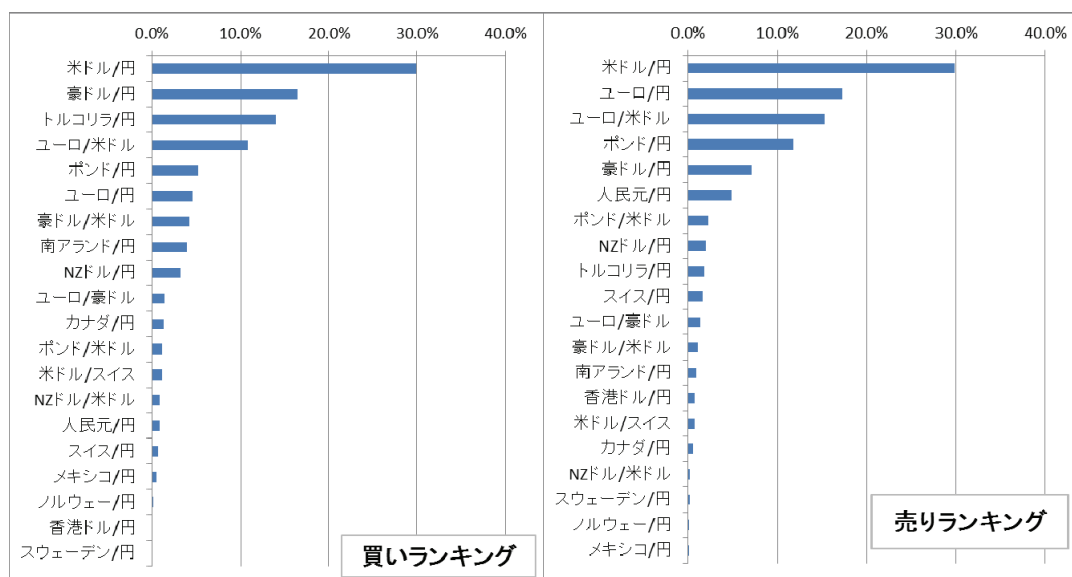


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2016 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

### 問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください

「今後注目している通貨ペア」について尋ねたところ、「買い」で注目の通貨ペアは、米ドル/円が29.9%の回答割合を集めて第1位をキープした。以下、2位豪ドル/円(16.5%)、3位トルコリラ/円(13.9%)、4位ユーロ/米ドル(10.8%)、5位ポンド/円(5.2%)と続いた。一方、「売り」で注目の通貨ペアは、1位米ドル/円(29.8%)、2位ユーロ/円(17.3%)、3位ユーロ/ドル(15.4%)、4位ポンド/円(11.8%)、5位豪ドル/円(7.1%)となった。「買い」で注目の通貨ペアについては、米ドル/円が42カ月連続で1位をキープ。米ドル/円は「売り」で注目の通貨ペアでも4カ月連続で1位の座を維持している。投資家の間で相場見通しが分かれており、その動きについて関心が集中している様子が見受けられる。また、ユーロ/円やユーロ/ドルの「売り」での注目の割合が「買い」での割合を上回っており、欧州経済の弱さや英国のEU離脱リスクなどを考慮した弱気見通しが根強い様子が結果に表れた形だ。なお、豪ドルは「買い」での注目度が前回(13.1%)からやや高まり、順位も2位へ浮上したが、一方で「売り」での注目度(前回6.1%)もわずかに高まった。3月の豪ドル/円は2月下旬からの戻り歩調の中にあるが、86円前後では頭の重さも見られており、豪ドル強気見通しが増えてはいるものの、弱気見通しも根強い模様だ。

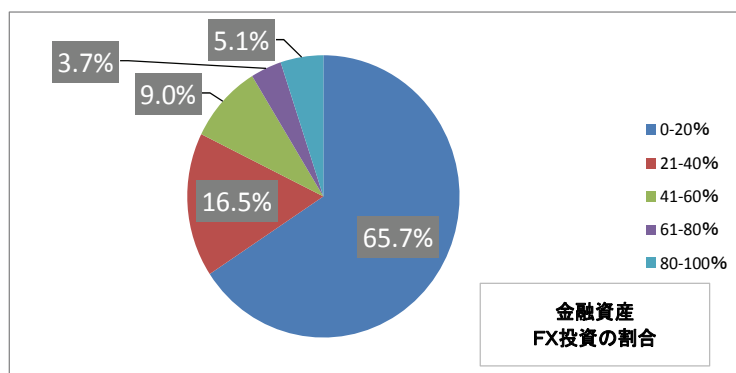


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご承願いたします。

Copyright©2016 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

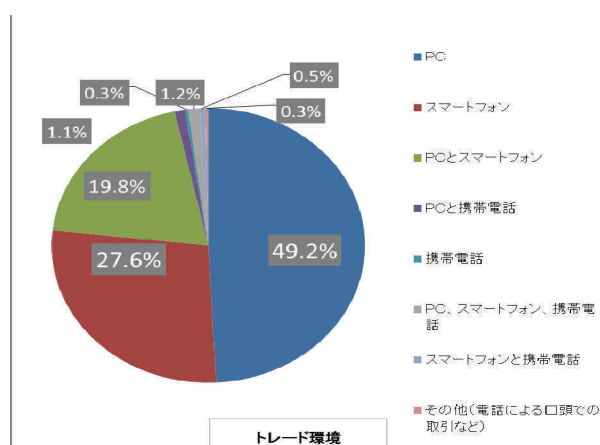
**問6:FX投資は、お持ちの金融資産の何%に相当しますか？**  
**(例:500万円の金融資産のうち、FX投資が100万円ならば20%)**

今回の特別質問項目として、「FX投資は、お持ちの金融資産の何%に相当しますか？」と尋ねたところ、「0-20%」が65.7%と最も多く、次いで「21-40%(16.5%)」。これに「41-60%(9.0%)」、「80-100%(5.1%)」、「61-80%(3.7%)」と続いた。大半のFX投資家が分散投資の対象の1つとしてFX取引を行っており、FXへの投資を60%以下にしている投資家については、FX以外に株式や貯金、投資信託、保険に投資している模様(自由回答欄より)だ。なお、FXの割合を61%以上(全体の8.8%)とする層の中は、貯金を抜いた「余剰資金」はすべてFXに投資する、という自由回答が多く見られた。



**問7:FX投資を行う中で、主にどのような投資環境でトレードをしていますか。(ひとつだけ)**

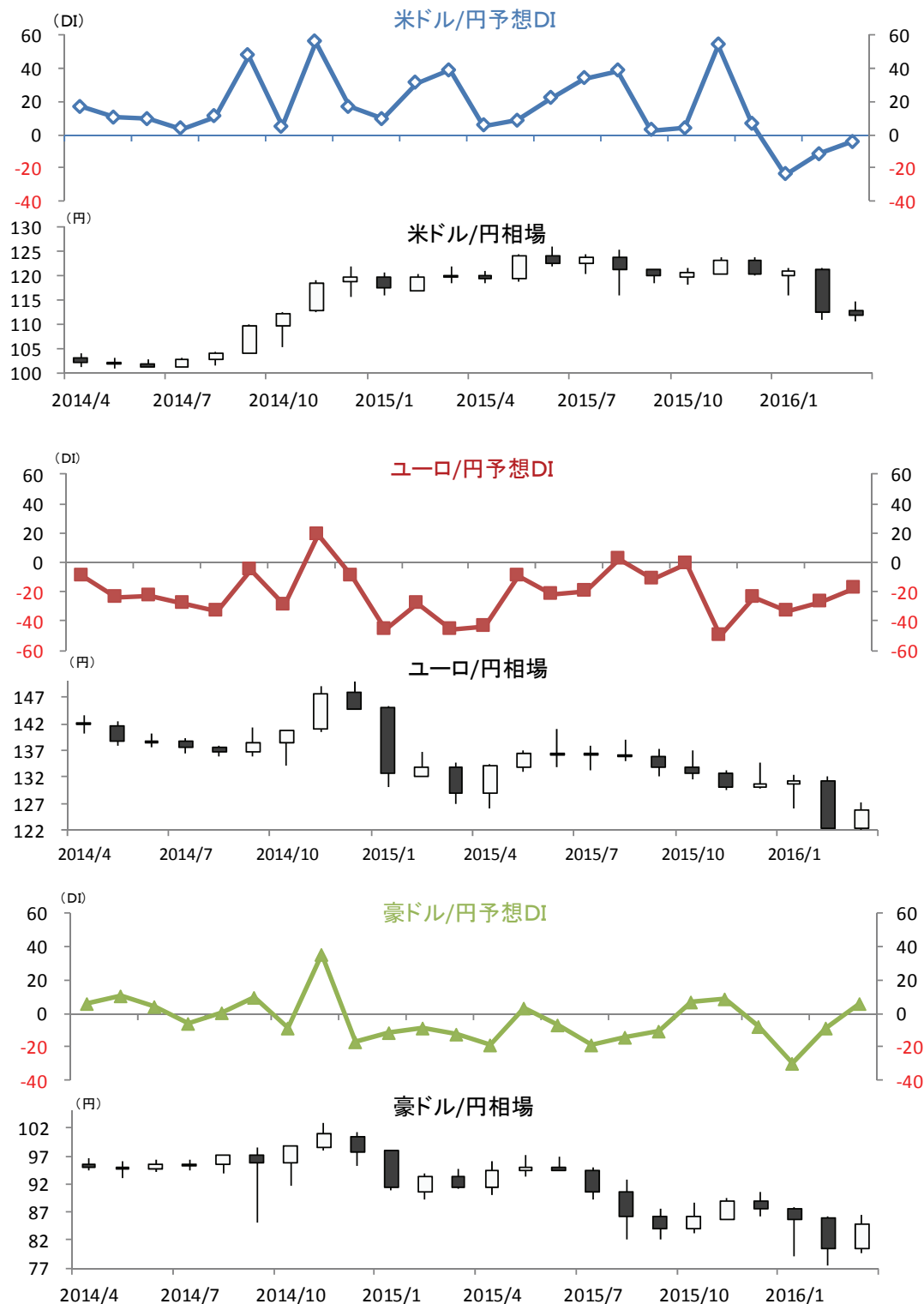
もうひとつの特別質問項目として「FX投資を行う中で、主にどのような投資環境でトレードをしていますか。(ひとつだけ)」と尋ねたところ、「PC」が49.2%と最も多く、「スマートフォン(27.6%)」、「PCとスマートフォン(19.8%)」と続いた。9割以上がPCかスマートフォン、もしくはその両方で取引している状態は2015年3月調査と同様であるが、当時よりPCのみ(前回:57.5%)が減少し、一方で「スマートフォン(前回:22.0%)」と「PCとスマートフォン(前回:16.1%)」が増加した。情報取得やトレード画面ではPCが優れており、根強い人気があるものの、スマートフォン取引の操作性が向上する中で、利用する割合が増えてきているようだ。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2016 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【付表: 主要3通貨ペア予想DIと足の推移】



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された 意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。Copyright©2016 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com



## 【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第82回目となりました。調査開始から6年以上が経過し、データの蓄積が進んできました。今後については、毎月定点観測で実施する調査結果を基に、予想DIの時系列比較から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などのほか、中長期的な視点に基づいたFX投資家の投資スタイルの変化などの考察も進めていきたいと考えています。

なお、毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年年初以降に公表する「外為白書」で紹介する予定です。

## 【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

		米ドル／円			ユーロ／円			豪ドル／円			
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI	
2014年	4月	41.4	24.6	16.8	25.7	34.5	-8.8	35.4	29.5	5.9	
	5月	33.9	23.5	10.4	19.7	44.0	-24.3	34.2	24.0	10.2	
	6月	31.1	21.7	9.4	20.1	43.1	-23.0	30.4	26.0	4.4	
	7月	27.9	24.4	3.5	17.8	45.8	-28.0	26.7	32.3	-5.6	
	8月	32.6	21.8	10.8	14.7	47.9	-33.2	27.8	27.7	0.1	
	9月	64.8	17.6	47.2	28.0	33.2	-5.2	36.0	26.5	9.5	
	10月	39.4	34.4	5.0	18.3	47.8	-29.5	27.1	36.1	-9.0	
	11月	70.0	14.2	55.8	43.0	24.1	18.9	54.0	18.4	35.6	
	12月	48.9	32.0	16.9	28.8	38.2	-9.4	26.9	43.4	-16.5	
	2015年	1月	39.3	29.7	9.6	15.1	60.6	-45.5	26.2	37.5	-11.3
		2月	46.8	16.1	30.7	19.7	47.5	-27.8	26.4	34.8	-8.4
		3月	52.3	13.6	38.7	15.2	60.5	-45.3	21.8	33.9	-12.1
4月		31.4	26.3	5.1	15.1	59.0	-43.9	23.4	41.9	-18.5	
5月		29.1	20.5	8.6	31.0	40.4	-9.4	32.2	29.1	3.1	
6月		43.5	21.9	21.6	25.4	47.2	-21.8	24.3	31.3	-7.0	
7月		49.1	15.5	33.6	23.6	43.7	-20.1	22.8	41.7	-18.9	
8月		51.1	13.1	38.0	30.9	28.8	2.1	24.1	38.5	-14.4	
9月		37.1	34.5	2.6	24.9	35.8	-10.9	29.9	40.7	-10.8	
10月		30.3	26.2	4.1	30.3	31.1	-0.8	39.6	33.0	6.6	
11月		67.3	13.6	53.7	11.1	61.4	-50.3	34.4	25.6	8.8	
12月		43.8	37.1	6.7	19.7	44.1	-24.4	30.5	38.4	-7.9	
2016年	1月	27.3	51.5	-24.2	19.2	52.6	-33.4	22.8	52.5	-29.7	
	2月	34.7	46.3	-11.6	22.5	49.0	-26.5	32.3	41.3	-9.0	
	3月	33.3	37.6	-4.3	24.8	42.1	-17.3	37.6	31.8	5.8	

(出所)外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2016 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com